

学研春秋

第69号

令和5年(2023年)
2月発行

題字: 高橋秀鋭
(号 洋風)



—— 76回大会参加者氏名 —— (会員54名 敬称略)

<落語家> 桂やまと師匠

<来賓>

(株) 学研ホールディングス	取締役	安達	快伸
〃	取締役	百田	顕児
〃	役員室長	西郷	直子

<会員>

安部隆 阿部利隆 荒井久男 安斎俊三 井田昌夫
伊與部史朗 岩崎文俊 内田安茂 江本清彦 遠藤久光
遠藤博 大井恒晴 大久保匡信 岡俊彦 忍足恵一
大橋敏剛 金子尚道 川上親孝 河崎三千夫 川西義規
川村正孝 木目田博 黒崎輝雄 小西貞人 小林民夫
斎藤一 酒井毅 佐藤八郎 篠崎作三郎 白石一清
菅原徳太郎 鈴木昭三 瀧澤真 田中勲 田中剛之
谷口義博 反頭義光 塚田ちよ子 中居栄太郎 仲田雄一
永松久幸 西島一 野村耕司 原田耕一 原田稔
日向邦夫 平田伸一郎 福山通彦 藤沢直之 真当哲博
村上裕也 森一郎 守田志郎 綿引英子



第76回秋季大会を開催

第76回秋季大会は、令和四年十月二十九日(土)に、中野サンプラザにて会員五十四名が参加して開催されました。

学研ホールディングスからは、安達取締役はじめ三名の方々にご臨席いただきました。

大会の初めに、真打ち桂やまと師匠の落語を楽しみました。第一部は、先ずこの半年の間に逝去された4名の方々のご冥福をお祈りして黙祷をささげました。続いて鈴木春秋会会長の挨拶、ついで、安達取締役・百田取締役からご挨拶をいただきました。次に、大会初参加の岩崎文俊さんと福山道彦さんから自己紹介をしていただきました。

第二部の冒頭に、西郷役員室長からご挨拶をいただきました。続く懇親会は、平田伸一郎さんの乾杯の発声でスタート。ビンゴゲーム、抽選会と賑やかに過ごし、「学研社歌」と「ふるさと」「青い山脈」のCDを聞いたあと、遠藤久光さんの閉会の挨拶で終了しました。会員には学研ホールディングスから提供された「脳が活性化する大人の日本地図脳ドリル」(画像関連ポストカード)をお持ち帰りいただきました。

学研春秋会第76回秋季大会 会長挨拶

学研春秋会会長 鈴木 昭三



さらに学研H・D・メディカル ケアサービスの山崎由貴さんにも景品持参でご参加いただき、受付などのお手伝いをしていただきました。ありがとうございます。

本日の第76回秋季大会に54名の会員の皆さまにご出席いただきました。春の大会に引きつづいての方もいれば、久々にお会いしたという方もおられます。みなさん元気にお集まりできたことを喜びたいと思います。

学研H・Dからは、安達快伸取締役、百田顕児取締役、西郷直子役員室長にご出席をいただきました。そして、さまざまな賞品のご提供をいただきました。さらに先ほどは多額のお祝い金を頂戴いたしました。心から御礼申し上げます。

今日は冒頭に桂やまと師匠の落語をたっぷり聞かせていただきましたが、この落語を楽しむことができたのは、がくらく会（学研落語研究会）の中里壽治さんのご尽力によるものです。中里さんにあらためて御礼の言葉を申し上げます。

そして、本日はがくらく会の若い方々にもご参加いただきました。一緒にこの大会を盛り上げていただければと思います。

学研春秋会の現在の問題点は、会員の減少傾向がずっと続いていることです。私が会長になった2018年4月には会員数が365名でした。4年たった今年4月の会員数は303名です。会員の高齢化が進み、お亡くなりになる方が増え、また病気を理由に会をやめられる方が毎年何名かずつ出ています。

前の会長で現在相談役をお願いしている大久保匡信さんをはじめいろいろな方から未入会の人をご紹介いただき、入会案内を差し上げています。今年度になつて入会されたのは、清水春樹さん、平島敏夫さん、中村裕之さん、谷口裕治さんの4人です。

みなさんにもこれはという人がおられましたら、ぜひ私たちが役員のほうにお知らせいただきたい。事務局から入会の案内を直接差し上げることにいたします。

今日も第二部は懇親会ですが、酒を飲まれる方にご注意申し上げます。

もう一度「強い学研」を作り上げる

学研ホールディングス取締役 安達 快伸



この10月1日で学研グループは78期がスタートしました。早いもので、2009年10月に学習研究社が分社化し学研ホールディングスになってから14期目になります。春秋会にお招き頂くたびに、今日ここにお集まりの皆様や、更にその先輩方が築き上げてきた歴史に支えられて今日の学研があることを再認識いたします。

個人のことを申し上げますと、1990年1月に学習研究社へ中途で入社しまして、当時立川駅の南口にあった立川支社に仮配属となりました。今日もご参加されています大久保支社長のもと、4か月ほどの見習い期間を経て、当時上池台にあつ

た本社ビル1階の経理部に配属となりました。入社した翌年の1991年3月期決算では過去最高売上1726億円となりましたが、その後20年近く減収が続き、2009年10月の分社化を機に今度は前々期の76期まで12期連続増収と、変化というか激動の学研グループを経理の立場として肌で感じて参りました。この30年を振り返ってみますと21世紀以前では、1996年にマルチメディアの双方向家庭学習教材としてスタートした「イマジン学園」、そして、1999年に総合幼児月刊教材として発刊した「はなまるきつず」などへの挑戦、いずれもバブル崩壊後の厳しい時代に訪販・家庭直販事業の再興を期して立ち上げた新規事業でした。その後、21世紀にはいると、2004年に「学研ココファン」が設立され、2006年3月に故古岡オーナー邸宅跡地に「ココファンレイクヒルズ」を開設し、今や、学研グループの2大事業分野の1つである高齢者福祉事業が本格的にスタートしました。ちょうど、同時期、2005年に学研メソッドを設立し、その後、埼玉、仙台、神戸、福岡、熊本など各地域の進学塾がグループインし、学研教

室とともに教育サービス事業を牽引しています。

分社化後は、旧学習研究社から引き継いだ家庭直販事業や市販の雑誌事業などが収斂されましたが、2018年に認知症グループホーム事業を展開するメディカル・ケア・サービスが加わり、教育と医療福祉の売上構成比がほぼ同じくらいの大きさになり、現在に至っております。

この30年を振り返って見ても、時には壁に阻まれながらも常に新しいことに挑戦してきた学研のDNAを実感しております。

それではこの9月30日に終了した77期の状況について少しお話をさせていただきます。76期まで12期連続増収、7期連続増益でしたが、何とか売上、利益とも1つずつ積み上げることが出来たという感触はございます。また、決算発表前であり、また、監査期間ということもあり、はつきりしたことはお伝えできませんがご安心いただいで大丈夫だと思えます。一方、株価については、この1年半ほど大変ご心配をおかけしております。こちらも立場上お伝えするの言葉を選んでしまいましたが、もっともっと上がるよう努力してまいりますし、短期的ではなく中長期的に企業価値が向上するよう経営陣一丸となって取り組んでおります。少し時間がかかるかもしれませんが、どうぞ、温かく見守っていただければ

落語家

桂やまと 獨演会

当日の桂やまと師匠の演題は、「時そば」と「宮戸川なれそめ」。生の声の迫力と話のおもしろさに会場は笑いに包まれ、あっという間の一時間を堪能しました。



桂やまと師匠プロフィール

一般社団法人落語協会所属真打

1974年、東京都荒川区生まれ。1999年中央大学卒業とともに桂才賀に入門。2014年三代目「桂やまと」を襲名し真打昇進。生粋の江戸っ子らしい明るく闊達な口調、こまやかな人物描写を持ち味として古典落語を語る。初めて聴く落語で子どもたちの落語観が決まると考え、小学校を中心とした学校寄席・落語教室を、ライフワークのひとつとして取り組んでいる。江戸時代から先祖代々住む下町・尾久を愛す。現在、荒川区立小学校PTA連合会会長を務める。

ば幸いです。

最後に、この10月1日に新しく第一歩を踏み出しました株式会社Gakkenについてご報告いたします。株式会社学研教育みらい、株式会社学研プラス、株式会社学研メディアカル秀潤社、株式会社学研出版サービスの合併および株式会社学研エデュケーショナルの一部部門の移管を行い、子どもから大人まですべての人に多様な学びを提供する総合出版社「株式会社Gakken」として新たにスタートいたしました。70年以上に渡り築き上げてきた学研の教育事業を結集し、もう一度「強い学研」を作り上げる決意をもって取り組んでまいります。もちろん、ただ単に一緒に頑張ただけでは勝ち残っていくことはできませんので、10年後の柱になる事業を築き上げていくために、デジタル技術を取り入れて、国内だけでなく世界に打って出る覚悟です。

今期は、中期経営計画の3年目です。中計のスローガンで掲げた「揺るぎない成長基盤の確立」を確固たるものとし、教育分野では「新たなまなびの創造」と多様な学習機会の創出、医療福祉分野では「トップカンパニーを目指し持続可能な街づくり」に貢献」を目指し、学研の更なる成長を牽引してまいります。

どうぞ、これからの学研に是非ご期待ください。

会員からのメッセージ

大会出欠の返信はがきから転載しました。スペースの関係ですべては掲載できませんでした。お便りも一部省略しました。

(青柳努) 特に変わりありません。

(阿部利隆) 定年退職して、20年以上経つと、同級生も大分鬼籍に入った方が多くなりました。

これからは、孤独になっても孤立すると言われます。いろいろなところに、首を突っ込んでいきたいです。

(安斎俊三) コロナでモグラのような生活をしていましたが、少しは落ち着いてきましたし、

天候もしのぎやすくなってきたので、屋外活動で身体を鍛え直します。相変わらず自治会・社協の仕事に励んでいます。

(飯田弘) 見沼用水のウォーキング、TVのメジャーリーグ、インターネット囲碁。まだ生きています。

(石丸孝) 米寿を迎え、次は卒寿と思っているが、さてその先の白寿は遠い。はたして、どこまで行くのやら。

(碓石眞彦) 三遊亭円楽死去。72歳まだ若い残念!! 私は78歳ですが、もう少し生きる予定でいます。



(石原寛二) おかげさまで、元気にしております。宮崎の冬神楽が今冬はどうなるか気をもん

でいます。

(井関秀二) 4回目のコロナ接種を終えましたが、外出も儘ならず、苛々の日々を過ごしております。

(板橋尚志) 足腰が弱くて、杖なしでの歩行は困難です。

(伍井達朗) 学研データサービスの業務に携わることになり、ただ今研修などで悪戦苦闘中です。

(伊藤雅信) 日々の散歩をしながら、四季の移ろいを感じています。また、定期的に検査を受けて、健康に努めているこの頃です。

(井上義弘) 健康維持のため、ウォーキングは毎日続けて過ごしています。

(伊與部史朗) コロナで行事が中止になり、仕事の組み立てに苦労しています。

(岩崎文俊) 今年4月にシニア社員を退職しました。今は近所にある市民菜園の一角を借りて家庭菜園などをやっています。

(岩野一夫) 音訳ボランティアに専念しています。今は、地元「東京骨灰紀行」に取り組んでいます。

(岩間勇水) 元気です。年は取りたくないですね。：整形病院に通院することとなり、週一度

76回 大会風景

(敬称略)

乾杯



(平田伸一郎)

初参加会員挨拶



(岩崎文俊)



(福田通彦)

受付



体温チェック

来賓挨拶



(西郷室長)



(百田取締役)

人気のお弁当



司会



第二部司会
(忍足恵一)



第一部司会
(安部隆)



リハビリ及びマッサージに通う生活で過ごしております。

(上野雅道) 深紅の大優勝旗は白河の関を越えて、東北に來ました。が、東北楽天イーグルスは失速と、仙台で一喜一憂しています。

(内田安茂) 毎朝40分ほどの散歩をしています。今年は雨が多かったように思いますが、全く歩けない日は意外と少なく、元旦からの1日の平均歩数が九千歩を超えています。

(宇野修平) 最近遠出は全くゼロです。近所の集まりに参加するくらいで、好きだったゴルフも近所の公園でグランドゴルフに参加するくらいです。

(遠藤久光) コロナウィルスの影響で行き来が間遠になり、春秋会報を見ては、知人の近況を知り、一喜一憂しています。当方まずはゆっくりと消光中です。

(遠藤博) そばが大好物なので、蕎麦春秋を参考に、都内と千葉の名店を来月から毎月一軒を目標にそば店巡りをしたいと考えています。

(笈沼暁子) コロナ禍の中、体力を維持するよう毎日買い物がてら歩くようにしています。遠出しなくなりました。

(大井恒晴) 81歳を越えましたが、元気です。母校の寮歌「惜別の歌」が身に染みる昨今ですが、好きな趣味を楽しみながら静かに時を過ごしています。

(大北義昭) 吉野の田舎で「障がい者福祉サービス」の会社を運営しております。作業所、グループホーム、小規模店舗(ランチや直売所)で楽しく過ごしております。吉野にお越しの際は是非お立ち寄りください。

(大久保匡信) この頃やたらと目に付くのがフレイルという言葉と認知症です。私はその年齢になったから気になるのかもしれませんが、それに加えて「運転免許の自主返納を考えてください。」というチラシ類・冊子が目に付きます。行きつけの病院でも、ラックに沢山入れてあります。プレッシャーがかります。認知機能低下を防止する努力を続けています。次回運転免許更新に向け頑張っています。

(大竹光夫) 平島さんを発起人として、5月に学研入社以来50周年記念の直販担当同期会を熱海で開催しました。中山さん、前澤さん、福土さんも参加。(田村さんは欠席。森永さん、諏訪さん、大津寄さんのご冥福をお祈りした後、旧交を温めました。

(大谷義男) 腰痛に苦しみながら家庭菜園に励んでいます。人工透析のため、1日おきに畑に出て汗を流しています。夏場は暑いので朝4時30分起床、7時まで畑にいます。3年目にしてやっと成功したのがメロンです。20個の甘いメロンができました。

(大西三喜男) 先日、お客様との商談中に突然プラージュの話題となりました。そのお客様はプラージュをたくさん売っていただいていたようで、昔話に大

抽選会大当たり!!



閉会挨拶
(遠藤久光)



また会いましょう!

お土産



ビンゴ



歓談



素敵な賞品



変盛り上がり、おかげさまで商談もうまく進みました。学研時代の様々な経験が今なお活かされていることに感謝です。

(岡村弘) 腰痛治療のために始めたスポーツクラブのプール通い、今も続けています。

(岡本和之) 何とか元気でやっています。

(忍足恵一) 先日、左下の奥歯を抜いた。奥歯の3本目の抜歯。親知らず4本、奥歯3本の7本欠けた。残り25本。8020(80歳まで20本)まで5年。保てるかどうか!

(甲斐田陸記) 新型コロナ禍のため、2020年からの3年間趣味の「潜り」で海中の景色、魚影などを楽しめずストレスがたまるばかりです。来年こそはと夢を膨らませているものの、後期高齢者の身。問題は身体がどうか心配です。

(影山皓一) 私は妻を介護して3年が経ちましたが18年もの長きにわたり奥さんを介護されている日氏の投稿に驚くと同時に感動した。体力の限界まで介護するという決意に私も改めて覚悟をし直しました。勇気ももらいました。

私が倒れたらどうしようもないから人一倍ストレスを貯めない努力はしています。ジム通い、ゴルフ・1泊2日の旅・家飲みだけでは飽きるのでたまに行くへ裏町酒場のへひとり酒。息子達家族とデイ、ショートなどの施設の皆様に支えられ助けられ

日常を過ごしています。

(加藤勇) 『雀百まで踊り忘れず』現役時代「詩吟部」「コーラス部」に籍を置き、吟じ・歌っていました。現在、風呂で相変わらずです。

(加藤信巳) 今年も元気に幼児用のワークを企画できました。孫が該当の年齢のため、楽しんで作っています。

(金丸幹尚) 河崎三千夫さんの「学研家職の思い出さまで」(第60・68号)を懐かしく拝読しました。私は昭和39年4月家職事業部の支社員即戦力として中途採用で入社、神戸支社に赴任しました。当時は大橋支社長でしたが家庭直販組織に逸早く画報ルートを起用しており、大変勉強になりました。

大阪支社に転任後も再び大橋さんとのめぐり合わせでいろいろご指導いただき、神戸を振り出しに画報界の人脈の流れで組織が拡大し、大阪の家職売り上げが最大になったこと、今は楽しい思い出として残っています。当年84歳、今のところ自力歩行しています。

(金子尚道) 社会保険労務士、行政書士として元気で仕事をしています。感染症の沈静化に伴い、諸会合も開催されることが多くなり、忙しくしています。

(河崎伊知郎) 学研を卒業して間もなく5年になりますが、未だに営業の仕事をしています。もう少し現役を続けようと思っています。

〔河崎三千夫〕高齢の故か、出不精で近くへ出かけるのも億劫

となり、ボケツとしている日常が多い。まさに人間失格。でも、月に数回の麻雀手合わせには多少頭も冴えるから不思議？

〔川西義規〕血栓症のため歩くのに苦労しています。ようやく歩けるように回復しました。

〔川村正孝〕平々凡々の毎日。1日5000歩の散歩がノルマとなっています。

〔木目田博〕シルバーで、元気で(?)仕事しています。

〔紀本智三郎〕私の楽しみのひとつは、図書館から借りてきた文庫本を、ベッドで横になって乱読することです。近頃は、既読の本を借りてしまうことが増え、これも加齢のせいと諦めています。

〔國光義彦〕なんとか、元気にしています。

〔倉持三郎〕毎日一万歩を目標にして、元気に過ごしています。

〔黒羽正一〕敬老の日を前に、家電量販店の広告でスピーカーを確認。ポイントを利用して購入する。購入後、TVとの接続に手間取りながらも視聴に成功。

ささやかな達成感にひたる。TVのポリウムダウンと言語の聴き取りが大幅に改善できた。

〔小杉皓男〕おつ、ついに私のところにもちゃんとして来たか。

高齢者におなじみの病「脊柱管狭窄症」。この10月で5ヶ月目。

今や対策の助っ人「脊柱管狭窄症は自分で治せる」(学研刊・

酒井慎太郎著)。いい本に出会いました。

〔近藤新平〕今年の夏の暑さは尋常ではなく、ホトホト参ってしまいました。昨年までは洗足区民センターに毎日出かけて、碁を打っていました。今年7月1日〜8月末までは一日も外に出ず、家の中でテレビばかり見ていました。

プーチンの狐のような顔が、にくらしくて、にくらしくて!! 「愚か者でも戦争はできるが、戦争を止めることは賢者でもできない。まして核戦争に於いておや」とどこかの新聞に出ていました。

さて、足腰が更に弱くなり、頭も体もグチャグチャになりそうです。皆様お元気です。

〔佐々木英夫〕昨年11月頃から妻の老老介護に頑張ってきましたところ、今年の5月19日に軽い脳梗塞を発症、現在は自宅でリハビリ中です。来春には必ず再起します。

〔佐藤敏和〕元気にやっております。

〔佐藤浩一〕お陰さまでコロナにも感染せず。夏に、3年ぶりに旅行することが出来ました。

〔佐藤八郎〕学研退職後、31歳からお世話になった角川書店(現KADOKAWA)の現役員と9月1日に会談する予定でしたが、前日「日程調整願ひ」のメールが届き、何だろうと思っていたら6日の朝刊1面にKADOKAWAの大きな見出しが:

6日の夜、現役の後輩社員と歓談しての帰路、転倒して右肘3針縫う怪我。角川家の「たたり」恐るべし。

〔重野隆弘〕夏に新型コロナウィルスに罹患し、療養しました。体調整えながら勤めております。

〔篠崎作三郎〕相変わらずPCのボランテアをやっています。が、先日相談室に101歳の方がお見えになりました。「マウスを忘れたので取りに戻る。車だから大丈夫だ!!」と言っていました。ビックリです。

〔清水敏〕最近、心身共に衰えて来ました。しかし、何とか月3回のGOLFはしております。

〔白石一清〕最近、歩くのが特に遅くなりました。そして体が左右にぶれるようになりました。散歩をしてもすぐに腰が痛くなり、ベンチや椅子に腰掛けようになりました。まだ杖は使っておりませんが、そろそろかなーと思う今日この頃です。

〔鈴木禹志〕85歳ですが、元気にしています。猛暑で散歩も控えめにしましたが、秋にはまた再開します。気持ちちは若く、しっかり生きたいです。

〔鱸洋之〕今年も旅行は見送り。趣味のゴルフを満喫中です。9月末で72ラウンドで、今年こそ百ラウンド(Ave 85)を達成させたいところ。まだ68歳。80歳でも元気で上手なゴルフアがあるのが励みになっています。

〔杉山茂生〕コロナ感染症が広がって3年になりますが、その

ためか、足腰がだいぶ弱ってきました。年齢(91歳)のこともありすが、「老い」というのがどういふことなのか、つくづく身にしみております。

〔関口一郎〕2019年12月から足掛け4年かかった我孫子宿の水戸道・成田道追分道標の保存事業が、本年9月末にようやく終わりました。

〔高橋脩〕体不調につき、今(9月)病院にかかっています。治りましたら、喜んで大会に出席します。それまでは。

〔高橋秀鋭〕趣味の囲碁とカラオケを楽しんでいます。なお、ギターの伴奏で歌ったり、歌手の経営する店で歌うなど、日日是好日の昨今です。

〔田中勲〕鉄道を趣味にしてかれこれ30年。駅舎などに特に興味があります。京王線は、現在、笹塚駅〜仙川駅間の高架化を進めています。徐々に地上駅が無くなっています。なので、今のうちに地上駅を見ておきたいと考え、全駅探訪をしています。

〔田中茂樹〕後期高齢者の仲間入りです。家庭菜園、時たまゴルフ・釣りなどで体を動かしています。

〔田中剛之〕古岡オーナーの生涯青春を胸に秘めて、まだ80歳です。自宅と平田小学校のヒマワリの写真と種が採れましたら、ウクライナ関係者に「ウクライナ支援ヒマワリ」と名付けて差し上げたいと思っています。ウクライナは、自分のこと

と違って、日常生活を有意義に過ごすことが、今日ほど希求されている時代はないと体感しています。

〔谷口義博〕春秋会のお世話をさせてもらいながら、日々畑で、天候と病害虫と戦いながら、野菜作りをしています。種から芽が出て成長して大きくなり収穫するという過程に、学研時代を思い浮かべています。

〔反頭義光〕コロナ禍の中、家庭内での生活が多く、運動不足で身体を衰えを感じています。季節も変わり、体力作りをしたいと思っています。

〔近松功〕相変わらず、調布市卓球連盟のクラブに加入し、週2回の練習と、週1回の夫婦での日帰り温泉。更に、7月に運転免許を更新。そして、1・2か月に1回、旅行を楽しんでいます。

〔塚本正人〕市民ギャラリーで、写真仲間と共に「写真展」を行うことが出来ました。次回に向けて、更に研鑽を重ねています。

〔筒井昭正〕グラウンドゴルフ、スカイクロスも休み中。時々、大原の里の駅や琵琶湖湖畔の道の駅まで野菜などを買いに出かけています。コロナが早く終息することを祈っています。

〔出島啓介〕読響コンサート、絵画展巡り、月3のゴルフラウンドが我が生活の機軸。アフターの飲茶放談会は、全くもって楽しい! 雑談に真情の発露あり。その感性にハッとすることも多

し。80代老人には肩凝りなしの学びの場。気楽に楽しく前向きでやっております。

(道休俊和) 医学の進歩に助けられて、何度か大病を克服。健康寿命を維持しています。終末期を思わせる国内情勢、世界情勢の中で、大谷翔平選手だけが救いでした。

(中居栄太郎) グループの会社で、お仕事をさせてもらっています。たまのゴルフを楽しみに、頑張っています。もう一度、富士登山をしたいです。

(中沢陸彌) 学童デイサービスで変わりなく働き、ハイキング・温泉巡り・カラオケなどで変わりに遊んでいます。

(中島正博) 腰の具合で悩んでいます。総合病院の医者にかかっています。痛み止めが出されるのみで、適当な治療はありません。悩んばかりいてもしようがないので、信州上田の「無言館」へドライブがてら行くことにしました。

(仲田雄二) 腰痛が激しいです。**(中村裕之)** 9月下旬に、高崎に引っ越しました。少し歩くと、上毛三山の景色が美しく、空が近く感じます。落ち着いたら、花壇を作る予定です。

(野口元) 81歳を過ぎ、子供の見守り、老人会の世話役、畑仕事を続けていますが、体力・知力の衰えはどうしようもないです。極力、楽しくやるつもりです。

(野村耕司) コロナ旋風で外出

の機会少なく、久しぶりの大会出席を楽しみにしています。

(野村実) 相変わらず元気ですが、右手・右足が不自由なので、毎日家にいます。

(橋詰庸郎) コロナの影響でこの3年地域内行事も実施できず生活リズムが大きく変わり、体力も日々減少。寿命も縮まっているように感じます。早く抗体が定着し、普段の生活に戻るよう祈る毎日です。

(原邦男) 高齢の運転免許証返納に伴って、週3回位の食料品の調達に歩くなどすると共に、月2回のゴルフを楽しんで体を動かしています。

(原正) この1年、めつさり体力減退。それに逆らって、この秋も東北地方に撮影旅行に出かけます。写真と漢詩の毎日です。

(原田耕一) コロナにもかかわらず、のらりくらりしています。時の経つの早さを嘆くのみです。貯めているもの＝ストレス、テレビドラマの録画時間。

(原田稔) あちらこちらと欠けながらの下り、下りの日々を送っています。来年度のNHK大河、家康は私のふるさと静岡(藤枝)も多く見られそうです。それまでは頑張らなくちゃと思います。今から楽しみに待っています。

(東武) お陰様で、10月末日、87歳になります。心臓、腎臓の経過観察で通院しておりますが、元気です。

(日向邦夫) この度、鶴見区老人クラブ連合会の会長を務める

ことになり、また横浜市老人クラブ連合会の副理事長になりました。毎日、会議、会議で大変忙しくなりました。

(平田伸一郎) 55年住み慣れた自宅を離れ、マンションに引っ越しました。

(平野光徳) 妻が闘病中ですが、私は元気でジム通いです。ヨガ、水泳を午前中頑張る、午後は妻と過ごしています。

(福沢弘行) 家庭菜園をしながら、「毎日ゆっくり」の生活をしてしています。毎日の投薬により、眼病の進行も見られず少し安心しました。体力が落ち不安があるので、脳ドックを受けようと思っています。

(藤原郁久) 相変わらず鳥獣保護分野で、東京都の環境行政の手伝いをしてしています。

(松下勲光) 畑の枝豆がそろそろ収穫期を迎えます。銘柄は、丹波の黒豆の大・小と、千葉の小糸在来種の3種類を220本作っています。これから毎日、2〜3kgずつ収穫し、隣近所や同級生に送ります。大変忙しくなります。

(真当哲博) 保育士資格を取得し、近所の保育園でパート保育士をやらせていただいています。保育現場の息づかいを肌で感じ、日々学んでおります。

(松原義和) 80歳代前半に、大腸ガン・膵臓ガン。いずれも早期発見で、ガン部分のみ切除する手術を行いました。アルコールはだめ、食べ物にも制限があり、不自由な生活をしております。現在90歳。

(松本慶二) 車椅子の生活です。**(馬淵宏)** 読書とテレビの毎日。それにちよっぴりの晩酌が、さやかな楽しみです。時節柄、すっかりインドア志向になってしまいました。

あり、不自由な生活をしております。現在90歳。

(三國晋諺) 日本万歩クラブは、創立以来57年の歴史を重ねてきましたが、今年春、惜しまれながら、解散いたしました。四半世紀にわたり活動に関わってきた私としては、大変残念ですが、これもひとつの大きな節目と思っております。「例会」に際しましては、ご参加・ご協力いただいた学研OBの皆様には、感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

(宮坂清茂) 先祖墓地の小宮、御柱祭の作業日程が重なり、大会は欠席します。また、身体も加齢による病院通いが多く、眼の治療も進まず、外出も日中の明るい時間のみです。

(村岡勝美) 孫娘、新1年生嬉しい！箱根旅行、何年ぶりの映画、大学ゼミ講習等々。グランドゴルフもはりきっています。

(村上裕也) 現代俳句協会神奈川県支部の年4回発行の会報発送の手伝いをしています。句作りはまだまだ未熟ですが、楽しくやっています。大橋巨泉のお嬢さん主催の句会にも参加しています。

(茂木晃二) 運転免許証更新で、

認知機能検査が終わり、次に高齢者講習を受けます。返納は少し先になります。

(守田志郎) 学研ココファン尾崎台(2番目の施設)第1号入居の母が亡くなりました。約16年間、優しい職員の方々に見守られ、105歳の大往生です。

大正生まれの紆余曲折の人生でしたが、穏やかな晩年を迎えられたことは、何よりも幸せだったと思います。

(森谷利道) 体調管理のため、スポーツクラブでテニス週1回を、40年間実施しています。体調と友人作りと社会との接点作りを大切に思っています。

(安威誠) ようやくコロナ蔓延も落ち着いてきたところで、日常に戻りつつあり嬉しく思っている今日この頃。嬉しいこと「その1」次男坊がプロボウズの決心をし、彼女のご家族とうちの家族が顔合わせ食事ができたこと。「その2」地元バンドの活動が再開され、コンサートができ、来客の皆さんがとても喜んでくれたこと。「その3」コンサルをしている会社から継続のオファーがあり、業績も上向き、とても喜んでいただいていること。「まとめ」家族皆健康であること。美味しく食事ができること。自由を満喫できていること。感謝!!!

(矢島康次) 米寿のお祝いをいただき、ありがとうございます。喜んでいました。父は、現在体が不自由ながらも、父らしく元

気がしています。

気に過しています。(娘より)
(吉田純三) 定期的に腰のマッサージに行っています。畑仕事もつらくなり、規模を縮小して楽しんでいます。春秋会報を見て、懐かしんでいます。

(吉羽文雄) 卒業以来、保育園お迎えボランティア、児童館、児童デイサービスと、子供たち相手に過ごしてきましたが、令和5年3月末で、終了といたします。

(和田保男) 猛暑とコロナは、何とか乗りきることができました。毎日の散歩と図書館通いを続けています。

(綿引英子) 86歳の年なりの行動をとりながらも、私なりの楽しみを続けています。

春秋ラウンジ

会員皆さんの投稿頁です。
 エッセイ・記録・紀行・趣味・自慢・秘話など歓迎。
 1編400字詰め2枚以内。
 投稿多数の場合は、掲載できないこともあります。

『販売局の想い出』

平林 宏茂

昭和30年10月朝日新聞求人欄に「営業部員募集 学習研究社」を見て履歴書を送ると、入社試験の案内ハガキが来た。

長原駅より中原街道を渡ったすぐ前に古びたモルタルの本社があった。入社試験、出版界についてのレポート提出、2階の狭い社長室での社長面接、11月に身体検査を受け12月に入社せよとの通知が来た。入社すると6名が書店係として採用され、都内の6書店に2週間店員見習いに行きました。

12月の給料は、5506円でした。1月より26号給で、本給10300円、身分手当500円に諸手当がつき保険金等が引かれ11721円でした。

1月から全国を7人(東北第一支局より大谷さんが加わる)で担当。私は東北6県と千葉、茨城、神奈川、大田区、品川区、世田谷区を担当。毎月書店回りをすることとなりました。仕事は5月発行の「少年少女学習百科全13巻」の受注とすでに発行されていた学年別学習年鑑、標準小学国語辞典の追加受注と月刊誌(幼稚園ブック、一年のくに、中学コース、高校コース)の売れ行き調査と、次号の送本希望の確認でした。

上野発22時頃の夜行列車は、大宮駅を出るとあたりは真っ暗。カンカンとなる踏切の音、遠くの農家のポツンとついた灯りを見て空いている4人がけの席に横になり、白河駅に6時すぎに着き、駅前食堂が開くまで待合室のストープで休憩。食事後13泊14日で、東北6県を回りまし

た。

全13巻の百科事典の値段は、7800円で、ほぼ給料1ヶ月分です。受注には苦労しました。書店名簿を頼りに、雪の街を長靴で歩いた入社早々の思い出です。

平塚別館ができ、1階に市販営業部と八洲紙業(後の資材部)2階に直販営業部が移りました。市販営業部は佐野部長、安野課長、森主任、神保係長でした。直販営業部は石戸谷部長。

本社と平塚別館の間の環状7号は狭い昔の旧道で、学研が始業した敷そばがありました。

駅ナカで発見⑨

田中 勲

椎内駅(宗谷本線)

「日本最北端の駅」

定年退職後、北海道の鉄道旅をするのが夢でした。4回出かけて道内のJR路線全線に乗り。そして、最北端駅椎内駅へ行ってきました。

札幌から1日2本しかない特急に乗り。旭川で函館本線から宗谷本線へ入り、札幌から約400kmの列車旅を楽しんできました。椎内駅到着。列車が止まった50mほど先に車止めが置かれていた。横には案内看板が建ち、「最北端の駅」と書かれていた。念願の駅に到着し、しばし立ち尽くしました。

なお、10年程前、駅舎は改装し、現在、この写真とは姿が全く違っているようです。

根室駅(根室本線)

「日本最東端駅」

椎内駅は最北端駅として良く知られているが、最東端駅の根室駅はマイナーな存在だ。

根室本線は函館線滝川より釧路を経て根室まで443.8kmを走る。釧路〜根室間は花咲線という愛称で呼ばれる。

終点根室駅ひとつ手前に東根室駅が昭和36年に開業した。実

際にはこの駅が最東端になるが、無人駅なので有人駅の根室駅に譲っている。

私が訪れた時、根室駅に建つ看板には「日本最東端の駅」と書かれていたが、2018年より「日本最東端有人駅」に変更したようだ。



上：椎内駅 下：根室駅

春・秋・会・告・知・板

★春季大会は五月二十日(土)

第七十七回春季大会は右記月日に、アートホテル日暮里ラングウッド(JR日暮里駅より徒歩3分)で開催します。ぜひご出席ください。

★年会費納入のお願い

年会費未納入の方は、ぜひお早めに納付をお願いいたします。お問い合わせは谷口義博幹事(会計担当)まで。

電話〇四五五〇一一一九六〇

★会員のご連絡のお願い

会員が亡くなられた場合、弔電、ご香料の手配をしています。

★会員勧誘のお願い

このところ、入会される方が少なく、会員数が減少気味です。学研を退職された方を存知でしたら、安部副会長までお知らせください。

★皆様のエッセイ、紀行などの投稿もお待ちしております。

発行〓学研春秋会事務局 〒535-0806 大阪市東淀川区東中津 一五〇四十一三〇四 電話・FAX 〇四五五〇七七四一・二三二〇

発行人〓鈴木 昭三 編集人〓森 一郎

幹事〓安部 隆／本多由利子／忍足 恵一／村上 裕也／

西奥 則子／谷口 義博／菅原徳太郎 印刷〓株学研メディア